一般財団法人脳神経疾患研究所　令和８年度事業計画

当財団は、「すべては患者さん・利用者さんのために」という理念に基づき、救急医療体制の強化、高度先進医療の推進、予防医学の拡充、介護・福祉と一体となった総合的な医療サービスを提供してまいりました。また、令和６年からは、新理事長が就任し人事を刷新するなど新たな体制の下で、医療材料や医薬品等の南東北グループとしての共同購入やPFMの推進、総合南東北病院の移転新築計画など様々な取り組みを推進してまいりました。

当財団は、昭和56年の南東北脳神経外科病院の開設以来、45年にわたり着実に伸展を続けてまいりました。その結果、総合南東北病院、南東北福島病院のほか、南東北医療クリニックなど13病院・診療所、ゴールドメディアなど６つの介護老人保健施設を始め、９つの居宅介護支援事業所、７つの訪問看護ステーション、９つの通所リハビリテーションセンターなどを有するまでになりました。各施設では、地域の医療・介護ニーズを的確に把握し、地域の皆さんの暮らしと健康を守るため、安定的かつ適切に各種事業を展開してまいりました。

また、各種がん治療を積極的に導入し、南東北がん陽子線治療センター、南東北BNCT研究センター、南東北創薬・サイクロトロン研究センターなどを順次開設してまいりました。今後とも、放射線を活用した高度先進医療の推進や医療インバウンドの拡充など、国内に止まらず世界規模での医学・医療に貢献してまいります。

新型コロナウイルス感染症については、５類感染症に移行した後も、その他の感染症も含め対策は継続しており、総合南東北病院は郡山市で初めての２類感染症対応病床として３床が福島県の指定を受けました。また、ロシアのウクライナ侵攻や中東情勢の混迷などによる世界経済の影響による円安の進行と物価上昇など厳しい経済状況のもと、医療・介護分野において地域の皆さんからの信頼に応えるため、さらなる経営改善により各施設の稼動を上げ良質な医療・介護サービスを安定して提供してまいります。

介護老人保健・障がい者支援・回復期リハビリなどを行う「東京リハビリテーションセンター世田谷」は世田谷区との連携体制を強化し、さらなる稼動の向上を推進します。陽子線やBNCT、その他の放射線治療・診断においても、今や世界のトップクラスの施設として評価されており、総合量子線治療センターを中心に国際医療本部によるインバウンドを拡充するなど一層の稼動促進を図ります。また、「南東北創薬・サイクロトロン研究センター」ではBNCTの適応診断や認知症の早期診断などPET研究が進められており、多くの研究成果が期待されています。このように、大規模な事業が順調に進捗しており、本年度においても、さらなる成果を積み上げてまいります。

本院の建替プロジェクトについては、福島県から取得した約15haの旧福島県農業試験場本場跡地において、協力企業と共に郡山市と協議しながらメディカルヒルズ郡山基

本構想に基づき地区計画の策定を進めてまいりました。策定後は、地区計画に基づき道路や上下水道などの整備を進めると共に、当該地への本院移転建替に向け取り組んでまいります。本院は福島県地域災害拠点病院や原子力災害医療協力機関として新たに指定されており、これらの機能強化を図ると共に、「新興感染症への対応」「高度・広域救急への対応」「災害医療への対応」を柱とした新しい総合病院建設プランの策定と建設を進めるため、各分野の多くの英知を結集してまいります。

当財団を中心に、9 法人からなる南東北グループは、職員数 9,000 人、事業所数 100 施設を超えるまでになり、青森県、宮城県、福島県、東京都、神奈川県、及び大阪府において、医療・介護・福祉事業を展開しています。令和８年度は、戦争や紛争による世界経済の悪化や円安などを背景とする物価上昇に対応し、変化する社会環境を的確に見据え、効果的な稼働率向上策を実施することにより、事業の拡充と安定継続を確保してまいります。

これらの遂行のため、以下の項目の達成に努めます。

（基本目標）

一　グループ全体の理念である「すべては患者さん、利用者さんのために」の原点を確認し、少子高齢化や人口減少に適応した医療介護事業を提供するサービスへ進化させ、更なる顧客満足度の向上に向けたガバナンスの強化に取り組み、患者さん、利用者さんから選ばれる病院・施設として地域社会の安心・安全に貢献することにより、南東北グループのさらなる伸展を実現する

二　戦争や紛争による世界経済の悪化や円安などによる物価上昇等に伴う経費負担の増加に対応するため、全職員へのコスト意識の徹底や DX 推進による業務プロセス改善などによる生産性の向上、さらに、診療材料・医薬品・委託契約等の定期的な見直しとグループ全体での交渉・共同購入などを推進する

三　持続的成長を支える原動力は「人」であるという原点に立ち返り、ヒューマンリソースを最大の経営資源と位置づけ、職員の能力向上と次世代リーダーの育成を一層強化するとともに、職員のエンゲージメントの向上のため、国の働き方改革など変化する労働環境に対応する業務の合理化・効率化、職員教育・研修等の充実など、職員のやりがいを促進する環境整備を進めることにより、職員の帰属意識を高め、離職を防止し、優秀な職員の定着を図り、もって全体の生産性の向上に資する

四　南東北グループの一員であることを自覚し、職員全員が互いに尊重し合い部署の垣根を超えたチームとして「連携・協力・支援」に努め労働時間の短縮と生産性の向上を実現すると共に、グループの総合力を最大限発揮することにより医療・介護・福祉サービスの需要に応じた事業を展開し、さらなる業績の向上を図る

五　厳しい経営環境の中で本院の建替え費用の財源確保のみならず、各事業所・施設においても設備の維持・更新、更なる発展に向けた投資を行うには利益確保が不可欠であることから、全施設、全職員が収益の向上を目指した業務運営に取り組み財政基盤の強化を図る

（全施設共通目標）

１　16 ゼロ作戦の推進と進捗管理の徹底

２　国の働き方改革に対応すると共に、職員の健康管理や DX 等の生産性を高める労働環境等の整備と OJT や web 活用も含めた各種研修などにより職員の業務遂行能力の向上を促進する

３　新型コロナウイルス感染症が恒常化する中、他の各種感染症も含めた対策を拡充・徹底し、web 会議などにより南東北グループ間で密に情報の共有化に努め、各施設の稼働率維持・向上に資する

４　医療・介護・福祉等、各種法令・基準等のコンプライアンスを強化し、令和８年度診療・介護報酬改定へ的確に対応し、さらに、医療においてはクリニカルパスを充実させ PFM（ Patient Flow Management）を強力に推進する

（各施設における重点目標）

Ⅰ　一般財団法人脳神経疾患研究所は、南東北グループの中心法人としてグループ全体のさらなる伸展に向け連携を強化し、企業体質の強化及び健全性の確保を図るため以下の項目を実行します。

⑴16 ゼロ作戦（①保険診療・コンプライアンス違反ゼロ、②請求漏れゼロ、③査定請求ゼロ、④請求返戻・返戻未請求・保留未請求ゼロ、⑤未収金ゼロ、⑥時間外勤務ゼロ、⑦無駄ゼロ、⑧感染・食中毒ゼロ、⑨人件費の適正化、⑩苦情ゼロ、⑪救急受入拒否ゼロ、⑫パワハラ・セクハラゼロ、⑬褥そうゼロ、⑭離職ゼロ、⑮虐待ゼロ、⑯個人情報漏えい・紛失ゼロ）を引き続き推進すると共に、業務の効率化や内容の見直し、職員間・所属間の連携・協力体制の強化、IT・DX 化による業務改善、意識改革・能力向上のための各種研修など総合的に取り組み、仕事への意欲と能力を高め生産性の向上に繋げます。また、恒常化する新型コロナウイルス感染症を含めた各種感染防止策を徹底し、医療・介護サービスの維持・継続に努めます

⑵国の働き方改革など、労働環境の変化に対応するため労務管理システム等を適切に見直し、健康管理やハラスメント防止など働きやすい職場環境づくりにより業務効率やモチベーションを高め生産性の向上を実現します

⑶東京リハビリテーションセンター世田谷、南東北創薬・サイクロトロン研究センター、大阪なんばクリニック、新百合ヶ丘総合病院新棟などの大型プロジェクトの稼動の向上を推進するとともに、本院の移転建替については、地区計画を策定し、移転先の道路や駅前広場などのインフラ整備を進めると共に、社会・医療環境の変化に対応し、地域のニーズを的確に取り入れ、「新興感染症への対応」「高度・広域救急への対応」「災害医療への対応」を柱とした新しい総合病院の建設に取り組みます

⑷医学の発展に寄与するため、職員の自己研鑽を推奨し、国の科学研究費の活用や民間からの助成等による研究活動や新薬の開発のための治験などに積極的に協力

するとともに、これまで取り組んできた学術活動を医療への貢献や教育にも活用できるよう情報発信する「The STR ジャーナル」を発刊します

⑸医学の発展に寄与するため、高度先進医療を推進し、人財を育成するとともに、医科大学、公益法人、学会等の研究活動支援のために助成を行います

⑹医学の発展と地域医療に尽くす意思のある将来性のある医学生を支援するため、南東北グループの医療機関で研修・勤務するなど一定要件を満たした学生等に返還免除制度のある奨学金を貸与します

Ⅱ　総合南東北病院、南東北医療クリニック、南東北眼科クリニックは、以下の項目を実行します。

⑴本院建替等の財源確保に向け、南東北第二病院との連携を強化するなど更なる収益のアップを図り、入院稼働率 100%、外来 1,300 人以上/日（クリニック）、眼科 200 人以上/日、病院 600 人以上/日（本院・救外）、合計 2,100 人/日、手術数 12,000 件以上/年、救急車台数 11,000 台以上/年、新規入院数 1,200 人以上/月により利益を確保し、新病院建替えなどに備えます

⑵国の働き方改革などによる労働環境の変化を的確に捉え、優れた人財を確保・育成するための人事・採用システムや、働きやすく合理的かつ効率的な職場環境を整備するなど、職員のモチベーションを高め、離職ゼロの取り組みを進めます

⑶グローバル化が進む中、海外から患者受入を促進するため総合量子線治療センターを中心に国際医療体制を強化します

⑷予防医学の重要性を広報・啓発するとともに、PET を含め、質の高い健診の受け入れ体制を拡充し、2028 年度に現在の年間収入の倍増(10 億円）を目標とします

Ⅲ　南東北がん陽子線治療センターは、計画的な装置等の維持、修繕を実施し、質の高い医療を提供すると共に、効果的な広報活動などにより、治療患者 620 人/年、経常利益率の向上に努めます。

Ⅳ　南東北 BNCT 研究センターは、全国・世界に向け治療実績を積極的に発信・広報し、治療人数 180 人以上/年、経常利益の黒字化を目指します。

Ⅴ　南東北創薬・サイクロトロン研究センターは、積極的な情報発信・広報活動により認知度の向上を図ると共に、新たな検査への対応など企業治験等の受託を進めます。

Ⅵ　南東北福島病院は、以下の項目を実行します。

⑴一般病棟病床利用率 90%以上、回復期病床利用率 95 %以上、救急車 1,000 台以上/年、手術件数 1,000 件以上/年を目指します

⑵本院だけでなく、福島医大、近隣の医療機関等とも連携・協力体制を構築し、稼働率の向上を実現します

Ⅶ　介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションセンターは、以下の項目を実行します。

⑴入所稼働率 100%、通所稼働率 90%以上を目指します

⑵老健の在宅復帰率を 50%以上にします

⑶経常利益率 10%～25%を達成します

⑷訪問系サービスは、営業の拡大、強化及びサービス向上により登録者及び利用者増を図ります

⑸居宅系事業所は、医療機関等との連携強化により積極的に稼動を上げるとともに、加算取得に努めます

Ⅷ　東京リハビリテーションセンター世田谷は、世田谷区との連携を強化・拡充し、地域における優位性を確立・発信し、区民から選ばれる施設として、さらなる稼働の向上を推進します。

Ⅸ　南東北こども学園は、経験・年齢などバランスのとれた保育人員体制を築き、幼児教育など保育の質をより高め、保護者からの理解と信頼を得て園児数の増に繋げるとともに、地域貢献のために、地域枠を設け、園児を受入れます。